



2022年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年9月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ストリーム
 コード番号 3071 URL <https://www.stream-jp.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)齊藤 勝久
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)齊 向東 (TEL)03(6823)1125
 四半期報告書提出予定日 2021年9月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年1月期第2四半期の連結業績(2021年2月1日~2021年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年1月期第2四半期	14,636	4.5	275	5.3	270	8.8	225	△3.2
2021年1月期第2四半期	14,002	22.6	261	255.2	249	261.8	232	628.5

(注) 包括利益 2022年1月期第2四半期 222百万円 (△2.7%) 2021年1月期第2四半期 229百万円 (581.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年1月期第2四半期	8 26	— —
2021年1月期第2四半期	8 53	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年1月期第2四半期	7,158	2,589	35.3
2021年1月期	6,072	2,367	37.9

(参考) 自己資本 2022年1月期第2四半期 2,525百万円 2021年1月期 2,299百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
2022年1月期	— —	0 00	— —	— —	— —
2022年1月期(予想)	— —	— —	— —	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年1月期の連結業績予想(2021年2月1日~2022年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,240	0.6	634	△4.1	609	△4.8	499	△12.6	18 29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年1月期2Q	28,525,000株	2021年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	2022年1月期2Q	1,236,500株	2021年1月期	1,236,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年1月期2Q	27,288,500株	2021年1月期2Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 決算補足説明資料の入手方法

決算補足説明資料は2021年9月17日（金）に当社ホームページに掲載する予定です。

※ 2022年1月期 第1四半期決算短信より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2021年2月～2021年7月)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発令等から、経済活動の制限や個人消費の低迷が続いており、ワクチン接種の広がりとともに経済活動再開への期待が高まる一方、変異株の脅威等感染拡大リスクは解消されず、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、海外においても、欧米等ワクチン接種に伴う経済活動再開等により景気に持ち直しの動きがみられるものの、世界的な半導体不足等、依然として厳しい経済環境が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイル作りのサポートとして「より良い商品」「より良い価格」「より良いサービス」をモットーに、新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既存概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①インターネット通販事業

当第2四半期連結累計期間(2021年2月～2021年7月)における国内の家電小売業界は、前期における特別定額給付金の支給効果が一巡し、パソコン等の情報家電やエアコン等の季節家電、大画面テレビ等の映像家電が伸び悩みました。

このような状況の中、当社が出店する「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上高は、巣ごもり需要が落ち着いたものの、ポイント等の効果的な販促施策の展開により、洗濯機や冷蔵庫等が好調に推移いたしました。また、パソコン周辺機器である無線LANルーターやHDD等について前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上高確保に努めてまいります。

WEB接客ツールのチャット機能を導入している「ecカレント」オリジナルサイト、「楽天市場」及び「Yahoo!ショッピング」の外部サイトにおける大型家電の配送設置サービスは、きめ細やかな接客を通してそれぞれのユーザーに合った提案を行うよう努めております。その結果、洗濯機、冷蔵庫等を中心に売上高は、引き続き好調に推移しております。

当社は、リネットジャパンリサイクル株式会社と提携し、小型家電リサイクル法に基づく使用済小型家電の宅配便リサイクルサービス「リタクル」を8月より開始しました。本サービスの提供を通じ、今後も小型家電リサイクル法を推進し、資源のリサイクルを通じてSDGs(持続可能な開発目標)が目指す循環型社会の構築に貢献してまいります。

各カテゴリにおける前年同四半期比では家電2.7%減、パソコン3.3%減、周辺機器・デジタルカメラ39.3%増となりました。

売上高は前年同四半期比微増となりましたが、利益面に関しましては、2021年5月以降、外部サイトのポイント等の販促施策強化に伴う広告宣伝費の増加や市場環境の変動から競合他社との価格競争が激しくなり粗利益が低下したことにより前年同四半期比微減となりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,872百万円(前年同四半期比5.5%増)、営業利益431百万円(前年同四半期比5.2%減)となりました。

インターネット通販事業の売上・受注件数等の推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	受注件数(千件)	棚卸資産回転率 (回転/年換算)
当第2四半期連結累計期間	13,872	431	752	12.1
前第2四半期連結累計期間	13,149	455	746	12.9

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	7,599	1,680	4,009	582	13,872
前第2四半期連結累計期間	7,811	1,738	2,877	722	13,149

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

②ビューティー&ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業においては、新商品として、2021年6月に、ヒト幹細胞培養液配合「XLUXES(エクスリユクス)」シリーズより、年齢による髪の悩みをケアし豊かな艶髪を実現する、洗い流さないヘアトリートメント「エクスリユクス モイスチャーヘアウォーター」を発売し、売上高は堅調に推移いたしました。

会員ビジネスにおいては、新型コロナウイルス感染症対策に伴いWEB会議アプリケーションによる動画(ライブ含む)配信を活用したオンラインセミナーを積極的に展開し、会員とのきめ細やかなコミュニケーションを行っており、売上高は堅調に推移いたしました。

2021年6月には、SNSを駆使して商品やキャンペーン等の情報発信を行い、ブランディングを推進するべく直営店舗である「サロン・ドゥ・インナップ青山」内にスタジオを新設し、オープン記念インスタライブを開催しました。更に、7月からは一般の方々への貸出を開始いたしました。

また、2021年7月には、当社とエクスワンの共同企画により、エクスワンが運営する公式通販サイト「エクスワン オンラインショップ」の新規出店を行いました。化粧品、健康食品や日用品等同社の約200アイテムを取り揃え、今後同サイトにおいて新商品の展開を進め、WEB販売の強化を図ります。

売上高に関しましては、会員向けビジネスは概ね計画通り推移いたしました。卸販売においては、新型コロナウイルス感染症の影響により免税店への海外からのお客様が実質ゼロとなる状況であり、依然として店舗販売は厳しい環境が継続し、全体として前年同四半期を下回りました。利益面に関しましては、昨年より継続して取り組んだ構造改革やコスト削減の効果もあり、収益体質は改善しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は453百万円(前年同四半期比17.7%減)、営業損失37百万円(前年同四半期は85百万円の営業損失)となりました。

ビューティー&ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第2四半期連結累計期間	266	153	32	453
前第2四半期連結累計期間	316	188	45	550

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③その他事業（「各種販売支援事業」、「3PL事業」）

「各種販売支援事業」においては、国内免税店6店舗において訪日観光客向け販売や株式会社エックスワン商品の会員向け販売のシステム・物流支援等を行っております。

「3PL事業」においては、当社が運営する「e cカレント」をはじめインターネット通販サイト運営で培ってきたノウハウを基に、販売から物流までワンストップで管理する質の高いシステムをインターネット通販事業者の皆さまに対して提供してきた実績を活かし、物流倉庫・受注管理・出荷の包括的な物流支援サービスである本事業の更なる強化を図っております。PCや家電以外に自転車等の案件によりビジネスは堅調に推移しております。

また、当社コーポレートサイトに3PL事業紹介サイト(<https://www.stream-jp.com/business/3pl/>)の開設や、継続的に新聞やインターネット（主に検索連動型）での同事業の広告展開及び取材対応に伴うメディアへの露出に努めております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は348百万円（前年同四半期比0.2%増）、営業利益42百万円（前年同四半期比15.2%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は14,636百万円（前年同四半期比4.5%増）、営業利益275百万円（前年同四半期比5.3%増）、経常利益270百万円（前年同四半期比8.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は225百万円（前年同四半期比3.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ1,085百万円増加し、7,158百万円となりました。これは主に、現金及び預金290百万円増加、商品754百万円増加によるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ862百万円増加し、4,568百万円となりました。これは主に、買掛金981百万円増加、未払金106百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ222百万円増加し、2,589百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益225百万円の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ290百万円増加し、1,684百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果増加した資金は、404百万円（前年同四半期は603百万円増加）となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益265百万円、仕入債務の増加額981百万円であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額760百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、126百万円（前年同四半期は69百万円使用）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出27百万円、無形固定資産の取得による支出101百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果増加した資金は、12百万円（前年同四半期は208百万円増加）となりました。収入の内訳は、短期借入金の純増額29百万円であり、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出15百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年1月期の業績予想に関しましては、2021年3月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,394,259	1,684,322
受取手形及び売掛金	1,319,819	1,222,468
商品	2,316,413	3,070,508
その他	111,572	189,079
流動資産合計	5,142,065	6,166,378
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	111,372	128,306
車両運搬具（純額）	5,046	4,379
工具、器具及び備品（純額）	34,140	44,387
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	152,562	179,076
無形固定資産		
ソフトウェア	300,918	309,312
その他	19,394	47,398
無形固定資産合計	320,313	356,711
投資その他の資産		
投資有価証券	2,504	2,490
出資金	270	270
差入保証金	370,912	368,366
その他	100,171	101,003
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	457,982	456,254
固定資産合計	930,859	992,042
資産合計	6,072,924	7,158,421

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,359,907	2,341,005
短期借入金	923,500	953,000
1年内返済予定の長期借入金	55,288	71,928
未払金	648,318	542,225
未払法人税等	137,062	50,603
賞与引当金	4,666	4,666
ポイント引当金	7,562	7,097
その他	134,349	183,589
流動負債合計	3,270,655	4,154,115
固定負債		
長期借入金	325,542	293,738
その他	109,603	120,650
固定負債合計	435,145	414,388
負債合計	3,705,801	4,568,503
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	650,974	876,330
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	2,299,683	2,525,038
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	102	88
その他の包括利益累計額合計	102	88
非支配株主持分	67,337	64,789
純資産合計	2,367,123	2,589,917
負債純資産合計	6,072,924	7,158,421

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年2月1日 至2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年2月1日 至2021年7月31日)
売上高	14,002,474	14,636,859
売上原価	11,105,403	11,350,785
売上総利益	2,897,071	3,286,073
販売費及び一般管理費	2,635,298	3,010,501
営業利益	261,772	275,571
営業外収益		
受取利息	8	12
受取配当金	13	2
受取手数料	1,135	581
為替差益	-	857
助成金収入	2,641	1,464
受取保険金	-	6,057
その他	983	624
営業外収益合計	4,783	9,600
営業外費用		
支払利息	14,441	12,951
支払手数料	950	1,000
為替差損	1,840	-
その他	250	251
営業外費用合計	17,481	14,203
経常利益	249,074	270,968
特別損失		
固定資産除売却損	4,570	1,098
本社移転費用	-	4,780
特別損失合計	4,570	5,878
税金等調整前四半期純利益	244,504	265,090
法人税等	15,282	42,282
四半期純利益	229,221	222,807
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,616	△2,547
親会社株主に帰属する四半期純利益	232,837	225,355

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
四半期純利益	229,221	222,807
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△131	△14
その他の包括利益合計	△131	△14
四半期包括利益	229,090	222,793
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	232,706	225,341
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,616	△2,547

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年2月1日 至2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年2月1日 至2021年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	244,504	265,090
減価償却費	78,989	76,677
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,740	-
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△348	△465
受取利息及び受取配当金	△22	△15
支払利息	14,441	12,951
為替差損益(△は益)	105	△118
固定資産除売却損益(△は益)	4,570	1,098
本社移転費用	-	4,780
売上債権の増減額(△は増加)	△195,142	97,350
たな卸資産の増減額(△は増加)	253,285	△760,119
仕入債務の増減額(△は減少)	121,303	981,097
その他	125,327	△137,066
小計	639,273	541,260
利息及び配当金の受取額	22	15
利息の支払額	△14,191	△12,706
本社移転費用の支払額	-	△4,780
法人税等の支払額	△21,229	△119,505
営業活動によるキャッシュ・フロー	603,874	404,283
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	3,000	-
有形固定資産の取得による支出	△14,227	△27,644
無形固定資産の取得による支出	△64,853	△101,405
子会社の清算による収入	6,744	-
差入保証金の差入による支出	△9	△6,364
差入保証金の回収による収入	-	9,029
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,346	△126,384
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	55,500	29,500
長期借入れによる収入	200,000	-
長期借入金の返済による支出	△44,400	△15,164
その他	△2,888	△2,172
財務活動によるキャッシュ・フロー	208,211	12,163
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	742,740	290,062
現金及び現金同等物の期首残高	658,944	1,394,259
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,401,684	1,684,322

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,147,667	539,845	314,960	14,002,474	—	14,002,474
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,973	10,812	33,162	45,948	△45,948	—
計	13,149,641	550,657	348,123	14,048,422	△45,948	14,002,474
セグメント利益又は損失(△)	455,802	△85,521	37,243	407,524	△145,752	261,772

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△145,752千円は、セグメント間取引消去△467千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△145,284千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	インター ネット 通販事業	ビューティ ー&ヘルス ケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,870,671	444,307	321,879	14,636,859	—	14,636,859
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,646	8,830	26,986	37,463	△37,463	—
計	13,872,318	453,138	348,866	14,674,322	△37,463	14,636,859
セグメント利益又は損失(△)	431,998	△37,043	42,900	437,856	△162,284	275,571

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△162,284千円は、セグメント間取引消去△362千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△161,921千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

3. その他事業は、各種販売支援事業及び3PL事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。